

第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2024年11月19日(火) 19時~20時30分
- ◇方法 Zoomによるオンライン方式
- ◇参加者 23名

- ◇実践報告 延暦寺学園 比叡山中学・高等学校 伊藤由季先生
「ESDと家庭科 — 中学・高校の実践報告 —」

【実践概要】

1) 「風呂敷から考える持続可能な未来」(高校2年) 全10時間

目標: 風呂敷を入口にして自らの価値観とライフスタイルの変革を促す

風呂敷を入口にして脱炭素社会を実現するための社会変革を先導する人材を育成する
滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの方と単元構想の段階から協働

授業づくりのポイントとして、

- ・発問中心の応答的な授業展開
- ・体験的な学習活動の重視
- ・協働的、主体的な学習の実践

(みつめる)

「あなたが一つだけ携帯できるとしたら、どれを選びますか？」レジ袋・紙袋・エコバッグ・風呂敷
体験・・・それぞれにいろいろなものを入れてみよう → 風呂敷の融通性(長所と短所)に気づく

(しらべる)

「風呂敷にできることって何だろう? 動詞で表現してみよう。」

遊ぶ、運ぶ、包む、洗う、背負う、飾る、敷く、拭く、被る、覆う、贈る、収納する・・・

紙袋やエコバッグではできないことも、風呂敷はどれもできる → 風呂敷の汎用性
風呂敷に限らず、日本の生活文化の共通性を知る(箸、畳文化など)

(ふかめる)

センターの方をGTに、風呂敷の活用方法や結び方などを学ぶ

体験と講義 「災害時の風呂敷の活用方法」「なぜ今風呂敷なのか?」・・・

脱炭素について結びついていく過程

(ひろげる)

グループごとに「風呂敷×脱炭素」をテーマにした5分間のプレゼン

・ゲームの運営者になって世界中のプレイヤーに風呂敷を広める

・「風呂敷ロックフェス」を開催する(知事に開催要望の手紙) など

ろうけつ染めでオリジナルの風呂敷を作成する

風呂敷を使ってみようキャンペーン(修学旅行に持参、活用)

学校と拠点が連携することでより質の高いESDが可能となる

互いの熱量をもって、時間をかけてねらいと思いを共有することが大事

2) 「ふなずしから考える持続可能な郷土の未来」(中学2年) 全16時間

目標：郷土食の本質（その土地の産物をその土地に伝わる調理法でつくるといっばんおいしく、健康づくりにもつながる）に気づく

環境保全と社会貢献の具体的手段を自分事として検討する

現代人の「食べる」という営みを批判的に考察する

夏休みの自由研究「滋賀の郷土料理」

それらの郷土食がどのようにして郷土食になり得たのか

湖魚の現状と課題について調べ、考える

(調理実習) 湖魚を使った調理実習・・・滋賀県水産課の方をGTに

アメノイオ(ビワマス)炊き込みごはん、コアユの佃煮、シジミ汁

湖魚の有用性ととも抱える課題を実感する

(出前授業①)「ふなずしという食文化とその未来」・・・鮎寿し魚治さん(湖里庵)

ふなずしの試食

(出前授業②)「琵琶湖の環境と生態系」・・・滋賀県水産課

ニゴロブナの漁獲量の低下 「漁獲量が上がればふなずしは継承されるのか？」

(出前授業③)「食と農を明日へつなぐ」・・・針江のんきいふあーむ

無化学肥料無農薬栽培に取り組まれている 「いのちのゆりかご」と称される田んぼ

琵琶湖とつながる田んぼは「環境にやさしい農業」であるべき

様々なGTを通して社会のリアルを知ることができる 学習が精緻化され深まる

MLGs(Mother Lake Goals)美しく豊かな琵琶湖を次世代に残すための13のゴール

→ 中学生の自分たちができることは何かを考え発信、行動

郷土を守り愛する心情をよりどころにして、自らと社会の変容を目指す生徒を育てたい

【意見交流】

- ・構想段階から拠点と一っしょに授業づくりをしていくことのメリットや大変さについて
→ 時間はかかるが、こちらのねらいと相手側の思いをすり合わせていいものにできる。
飛び込みで行っても、受けてもらえることは多い。教師の熱と思いは重要。
- ・風呂敷は韓国にも同じ文化があり、共同研究ができておもしろい実践になりそう。
- ・琵琶湖の水がどこから来てどこへ流れていくのかなど、水の循環について学んでいるのか？
→ 滋賀県の小学生は5年生で「琵琶湖フローティングスクール」で学んでいる。
- ・使い終わった布を使って風呂敷にアップサイクルするというプレゼンをしたグループもあった。
QRコードを付けて、包み方や結び方の動画へアクセスできるおまけも。
- ・風呂敷を使ったラッピングコンテストなんかだったら校内でもできて面白いかも。
→ SNSにはいろんな風呂敷の使い方が出ている。
- ・風呂敷の汎用性や融通性については、小学生でも授業でやったら気づけるいい問いだと感じた。
- ・問いの立て方、目標の持ち方で大事にしていることは？
→ まずは目標を明確にする。問いづくりは時間をかけてかなりいっしょうけんめい仲間と考える。
絶対授業を面白くしてやる！ そのための題材との出会い
- ・継続して学校として取り組んでいくうえで大切なことは？
→ 学校全体でやっていこうという雰囲気はなかなか生まれてこない。

自分が他の先生の授業を見に行く、自分の授業もいつでも見に来てもらうことをやっている。
拠点等から依頼された仕事はできるだけ断らない。 信頼関係は大事。

- ・伊藤先生のように、大変だけど楽しそうに授業づくりに向き合っていると、特に若い先生たちはその様子を見てついてきてくれるのでは。
- ・「つまらない授業をするとストレスがたまる」というのはその通りだと思う。だから、絶対授業は面白くしてやるというところに、ESDの真髓があるかもしれない。
- ・風呂敷に代わるものって何かな？ 滋賀はふなずし、自分の地域だったら何かな？ この実践は汎用性があると感じる。

